

ポイント 負債比率や固定比率、あるいは流動比率といったものがあります。

A4 会社の資金は株主資本である自己資本と他人資本である負債とがありますが、負債は返済すべきものですので、この負債の割合が大きければ会社の体質が弱くなります。

まず、**自己資本比率**は総資本に対する自己資本の割合を示しますが、これは一般的に20%以上が望まれます。

自己資本に対しての負債の割合を**負債比率**といいます。これは低い方が望まれます。

また、建物や設備などの長期にわたって使用される固定資産を自己資本でどれだけまかなうかを示す割合を**固定比率**といいます。さらに自己資本だけでなく長期借入金などの固定負債も含めたところで固定資産を賅っているかを示すのが**固定長期適合率**といいます。固定長期適合率は100%以下が望まれます。

さらに会社が短期的な支払い能力があるかどうかは**流動比率**によります。これは流動資産に対する流動負債の割合を示し、1年以内に返済する予定のものにたいして1年以内に換金化できるものがどれだけあるかを示します。この比率は200%以上が望まれます。

流動資産の代わりに当座資産で流動負債に対する支払い能力を示したものが**当座比率**というもので当座資産は現預金・受取手形・売掛金・有価証券などをいいます。この当座資産は流動資産よりも現金化しやすい資産での支払い能力をみるもので100%以上が望まれます。

$$\text{当座比率} = \frac{\text{当座資産}}{\text{流動負債}}$$

